

# 原油ETF証拠金取引 WEEKLY REPORT

2022/03/28号

マーケットエッジ株式会社 小菅努



## 【現状確認】



(注) 2021/09/12まではWTI原油価格連動型上場投信のデータ (出所) Refinitivよりマーケットエッジ作成

## 供給不安を織り込み再開で急反発

NY原油先物相場は、1バレル=110ドル台前半まで急伸する展開になった。過熱感を背景とした調整売りが一巡し、改めて地合を引き締めている。3月7日の130.50ドルをピークに15日の93.53ドルまで急反落していたが、一気に110ドル台まで切り返している。3月9日以来の高値を更新した。

ウクライナ情勢は依然として緊迫しており、ロシア産の供給不安の織り込みが再開されている。2月24日にロシア軍がウクライナに侵攻してから1か月が経過したが、激しい戦闘状態が続いており、各国がロシア産原油の取引を縮小・停止する動きが、国際原油需給のひっ迫リスクを高めている。また、カザフスタンやロシアと黒海を結ぶカスピ海パイプライン・コンソーシアム (CPC) が悪天候によるプラットフォームの破損で操業を停止したこと、イエメン武装組織フーシ派がサウジアラビアの石油関連施設に対してミサイルとドローンによる攻撃を行い、火災発生が報告されたこともポジティブ材料視された。CPCは日量120万バレル規模の送油能力があるが、最大で2カ月の稼働停止リスクが報告されている。

米エネルギー情報局 (EIA) 発表の米石油在庫 (3月18日時点) は、原油が前週比251万バレル減、ガソリンが295万バレル減、石油精製品が207万バレル減となった。

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項 (ディスクレーム) をお読み下さい。

## 原油ETF証拠金取引 WEEKLY REPORT

## 【展望】

## ロシア産の供給不安で堅調、OPECプラスは特別な対応見送りか

ロシア産の供給不安を織り込む展開が続き易い。最終的にロシア産原油供給がどの程度落ち込むのかは不確実性も強いが、国際エネルギー機関（IEA）が4月以降に日量300万バレルの供給減を予想している一方、代替供給先を確保する目途が立たないことで、需給ひっ迫リスクの織り込みから押し目買い優勢の展開が続き易い。

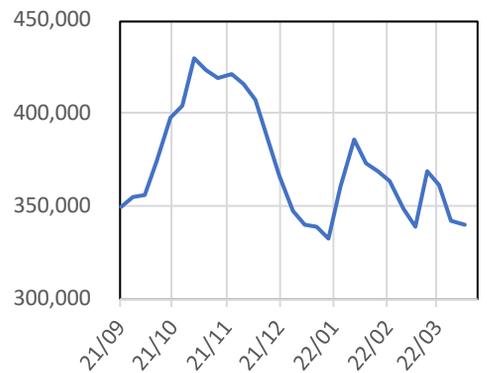
3月31日に石油輸出国機構（OPEC）プラスの閣僚級会合が開催されるが、従来通りに5月も日量40万バレルのペースで増産対応を続ける見通し。米欧などからはサウジアラビアやUAEに対する増産要請も行われているが、両国ともに積極的な政策調整には否定的な立場を示している。ロシアも増産加速の必要はないとしており、OPECプラスの大規模増産による原油価格鎮静化が実現する可能性は低い。

欧州連合（EU）は24日の首脳会合でロシア産原油の禁輸措置導入を見送った。ただ、ロシア産原油の輸入削減への取り組みは確認されており、代替供給先を模索する動きが急ピッチに展開される見通し。米国が一部の代替供給を申し出ているが、十分な代替供給能力を確保する目途が立つまでは、原油相場に対する上振れリスクが維持される。

改めて原油相場が急伸していることを受けて、米国を中心に石油備蓄放出の議論が活発化している。ただ、3月1日にIEAで合意された6,000万バレル規模の備蓄放出は原油価格鎮静化に殆ど効果がみられず、影響は限定されよう。

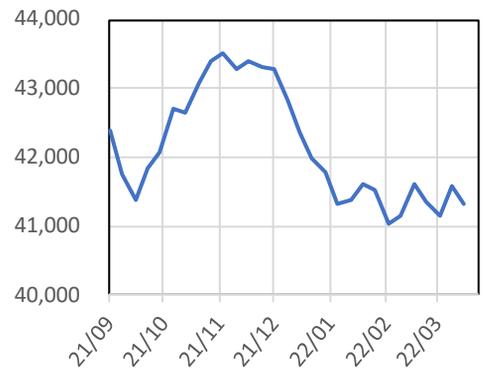
ウクライナの停戦合意期待の蒸し返し、CPCの早期稼働再開の可能性浮上と言った動きがみられると、調整リスクが高まる。

(枚) NY原油先物 大口投機筋ネット建玉



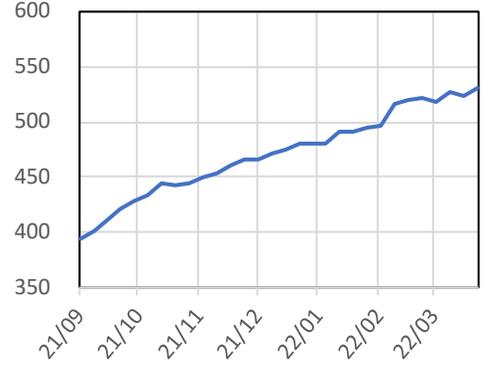
(出所) CFTCよりマーケットエッジ作成

(万バレル) 米原油在庫



(出所) EIAよりマーケットエッジ作成

(基) 米石油リグ稼働数



(出所) Baker Hughesよりマーケットエッジ作成

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーム）をお読み下さい。

## 【ディスクレーム（免責条項）】

本レポートは、本取引所がマーケットエッジ株式会社から提供を受けて、公表しているものであり、本レポートの内容に関する一切の権利は、マーケットエッジ株式会社に帰属いたします。本取引所は、本レポートの正確性、完全性、適時性等を保証するものではありません。また、本取引所は、本レポートを用いて行う一切の行為及び本レポートに基づいて被った損害について、何ら責任を負うものではありません。

株式会社東京金融取引所

本レポートは、マーケットエッジ株式会社（以下、弊社）が、投資判断の参考となる情報提供を目的に作成したものです。金融商品売買の勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定は、投資家ご自身の判断で行って下さい。本レポートは、弊社が信頼できると判断した情報源からの情報に基づき作成したのですが、情報の正確性、安全性を保証するものではありません。また、本レポートに記載された見解や予測は、本レポート発行時における弊社の判断であり、全部または一部が予告なしに変更されることがあります。本レポートを使用することに生ずるいかなる種類の損失についても、弊社は責任を負いません。本レポートの著作権は、原則として弊社に帰属いたします。本レポートにおいて提供される情報に関して、弊社の承諾を得ずに、当該情報の複製、販売、表示、配布、公表、修正、頒布または営利目的での利用を行う権利を有しません。

【会社名】 マーケットエッジ株式会社（Marketedge Co., Ltd.）

【所在地】 〒103-0014 東京都中央区日本橋蛸殻町1-18-1（古川ビル4F）

【URL】 <https://www.marketedge.co.jp/>

【電話】 TEL : 03-6661-9498 【E-mail】 [info@marketedge.co.jp](mailto:info@marketedge.co.jp)

### 小菅努（こすげ・つとむ）プロフィール

1976年千葉県生まれ。筑波大学社会学類卒。商品先物会社の営業本部、ニューヨーク事務所駐在、調査部門責任者を経て、2016年にマーケットエッジ株式会社を設立、代表に就任。金融機関、商社、事業法人、メディア向けのレポート配信、講演、執筆などを行う。

最新情報は  
ツイッターで

